

平成十七年度事業報告及び決算報告

▽平成十七年度事業報告△

1 鑑賞研究事業

(1) 本部主催鑑賞研究会

平成十七年度「刀剣鑑賞会」は、八月・十二月を除き毎月第二土曜日に実施。各回平均五四名参加。

(2) 支部主催鑑賞会

支部鑑賞会等への講師派遣・鑑定刀貸与

各支部の活動に協力し、その要請に応じて、講師の派遣と参考刀・鑑定刀の貸与を行った。

平成十七年度の講師派遣と鑑定刀貸与延べ一四一回、鑑定刀貸与のみ延べ三六回。

講師派遣に伴う旅費の本部負担は一支部あたり上限三回とした。

また、講師及び支部が携行する貸し出しの刀剣類について、それぞれ評価のうえ損害保険を契約して、損害防止に対応した。

なお、保険料の半額は支部負担とした。

2 講習会及び研修会事業

(1) 美術刀剣製作技術保存研修会

(イ) 刀職技能訓練講習会

第十九回講習会は本年より会場を岡山県瀬戸内市の「備前長船刀剣博物館」に移し、刀身仕立の部・柄下地の部・彫金の部の三部門を同時開催として、六月二十八日～同月三十日の三日間で実施した。

受講者は、刀身仕立の部一四名、柄下地の部九名、彫金の部二八名。講師は刀身仕立の部は刀匠の上林勇一、柄下地の部は柄巻師の岡部久男、彫金の部は白銀師の中田育男の各講師が担当した。

(ロ) 刀剣研磨・外装技術研修会及び鍛冶研ぎ研修会

第三十八回刀剣研磨・外装技術研修会及び第三十二回鍛冶研ぎ研修会を当協会四階講堂において実施した。研磨の部と鍛冶研ぎの部は八月二十二日～同月二十四日、外装の部（鞘の部、柄の部、鍔の部）は八月二十五日～同月二十七日の各三日間開催。特別研修生一〇名、研修生一七名、

聴講生三三名、計五九名の参加があった。講師は研磨の部は研師の永山茂、吉田弘、高岩節夫、吉田秀雄、柳川清次、斉藤司、萩森明、河本宏和、篠崎公紀、鍛冶研ぎの部が刀匠の吉原莊二、宮入法廣、宮入恵、瀬戸吉廣、鞘の部が鞘師の高山一之、柄の部が三谷修史、坂入真之、鍔の部が鍔師の宮島宏の各講師が担当した。

(イ) 作刀技術実地研修会

島根県仁多郡奥出雲町の「日刀保たたら鍛錬道場」において、第二十三回作刀技術実地研修会を実施した。九月二十六日～同月二十九日の期間で、特別研修生二名、研修生四名、聴講生一六名の参加があった。講師は刀匠の吉原莊二、三上孝徳、上林勇一、瀬戸吉廣、宮入恵の各講師が担当した（研修は三カ年をもって修了）。

(ニ) 文化庁主催

美術刀剣刀匠技術保存研修会
平成十七年度美術刀剣刀匠技術保存研修会が、島根県仁多郡奥出雲町

の「日刀保たたら鍛錬道場」で開催された。協会は協力事業として、講師の派遣及び施設の提供等について支援をした。実施日は平成十七年九月二十八日～十月五日。

3 審査公開事業

(1) 刀剣・刀装・刀装具の審査

保存刀剣 受付点数 五、九九〇
合格点数 三、八三〇
保存刀装・刀装具 受付点数 三、一九〇
合格点数 二、三一五

特別保存刀剣受付点数 一、九四九
合格点数 九八八

特別保存刀装・刀装具 受付点数 四四四
合格点数 三五七

重要刀剣 受付点数 一、一〇六
指定点数 二〇三

重要刀装・刀装具 受付点数 三四四
指定点数 八一

(2) 新作刀展覧会

平成十七年新作刀展覧会を文化庁後援で開催した。作刀の部一五五点、

彫金の部三〇点、刀身彫の部八点の出品。審査の結果、特賞八点、優秀賞一四点、努力賞二二点、入選八四点があり、平成十七年六月七日に受賞作品の表彰を行った。入選作品以上について平成十七年六月七日～同月十九日、刀剣博物館で一般公開し、入場料を無料とした。

また、六月二十五日から七月十四日まで大阪城天守閣においても同展が開催された。

なお、九月八日から九月十四日の七日間、三匠会主催、当協会後援で、渋谷東急本店において「平成十七年現代名刀展」が、同じく九月三十日から十月五日まで、ながの東急百貨店において「現代名刀展」が開催された。

(3) 刀剣研磨・外装技術発表会

第五十八回刀剣研磨・外装技術発表会を実施した。出品点数一三三一点。審査の結果、特賞七点（研磨六、白銀一）、優秀賞二二点（研磨五、刀装二、白鞘二、柄前一、白銀二）、努力賞一八点（研磨一〇、刀装なし、白鞘三、柄前二、白銀三）、合計三七点が入賞。

授賞式は、十二月六日に当協会講堂において行った。

また入賞作品については、刀剣博

展覧会実施状況（主催・後援含む）

名 称	期 間	主 催	後 援	会 場
古 刀 新 刀 名 作 展	3月29日 6月5日	協 会 本 部		刀 剣 博 物 館
北 海 道 ・ 東 北 現 代 刀 匠 展	5月17日 6月2日	(財)致道博物館	協 会 本 部	致 道 博 物 館
刀 剣 と 武 具 展	5月31日 6月12日	刀 剣 協 会 会 部 大 分 県 支 部	協 会 本 部 大分県・大分県教育委員会	大分県立芸術会館
平 成 1 7 年 新 作 刀 展 覧 会	6月7日 6月19日	協 会 本 部	文 化 庁	刀 剣 博 物 館
古 刀 新 刀 名 作 展	6月21日 8月21日	協 会 本 部		刀 剣 博 物 館
坂城町合併50周年記念 刀匠宮入 行平と宮入一門—その神髄をさぐる	6月24日 8月28日	坂城町鉄の展示館	協 会 本 部 信越放送・長野放送	坂城町鉄の展示館
平 成 1 7 年 新 作 刀 展 覧 会 大 阪 展	6月25日 7月14日	協会本部・大阪市 大阪観光コンベンション協会	文 化 庁	大 阪 城 天 守 閣
鈴木嘉定コレクション寄贈品展	8月23日 10月23日	協 会 本 部		刀 剣 博 物 館
平 成 1 7 年 現 代 名 刀 展	9月8日 9月14日	三 匠 会	協 会 本 部	渋谷東急百貨店
平 成 1 7 年 現 代 名 刀 展	9月30日 10月5日	三 匠 会	協 会 本 部	ながの東急百貨店
お 守 り 刀 展 覧 会	10月13日 11月23日	全日本刀匠会	協 会 本 部 三匠会・岡山県	備前長船刀剣博物館
第 51 回 重 要 刀 剣 等 新 指 定 展	10月25日 12月4日	協 会 本 部		刀 剣 博 物 館
第 58 回 刀 剣 研 磨 ・ 外 装 技 術 発 表 会 入賞作品展	12月6日 12月18日	協 会 本 部		刀 剣 博 物 館
新 春 名 刀 展	H18年1月5日 3月26日	協 会 本 部		刀 剣 博 物 館
特 別 展 「戦 国 武 将 の 装 い — 異形兜から祐乗目貫まで」	1月5日 2月6日	佐野美術館 三島市・三島市教育委員会	協 会 本 部	佐 野 美 術 館
天満屋 お 守 り 刀 展	1月17日 1月23日	全日本刀匠会 天 満 屋	協 会 本 部 三匠会・山陽新聞社	天 満 屋 岡 山 店

博物館において、十二月六日から十二月十八日まで公開・展示し、入場を無料とした。

(4)平成十八年二月二十三日の理事会において無鑑査(作刀の部)二名が認定された。

4 伝位に関する事業

平成十七年度の伝位審議会を開催し、申請一〇名について審議の結果、初伝位一名、中伝位待遇八名、計九名が授与された。

5 刀剣博物館事業

(1)刀剣博物館入場者

一般	一〇、六三八名
一 会 員	一、七一三名
学 生	一、一三名
招 待 者	六二二名
中学生以下	一、二六七名
団 体	二二三名
計	一五、五八四名

(2)展覧会実施状況(主催・後援含む)別表のとおり。

6 会誌『刀剣美術』の発行事業

会誌『刀剣美術』を月刊で、平成十七年度は第五七九号から第五九〇号まで発行し、会員に配布した。

編集スタッフは、協会職員のほか、に専門分野に通じた協会役員を交え、毎月定期的に会合・協議して誌面の充実につとめた。

7 資料の整備及び活用事業

刀剣・刀装具等に関する文献のほか、参考資料の収集につとめ、研究者の利便を図った。資料室では、会員の資料のコピーサービス(有料)

8 寄託事業

刀剣・刀装・刀装具及び甲冑・武器、文献等の寄託に応じ、その管理、保存を行った。

9 たたら事業

平成十七年度の新規寄託申込みはなかった。
たたら事業を二代実施(平成十八年一月十五日から同一月二十八日)

収 支 計 算 書 総 括 表

自平成17年4月1日 至平成18年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	一般会計	たたら特別会計	合 計
寄 付 金 収 入	0	0	0
補 助 金 収 入	2,000,000	2,650,000	4,650,000
会費及び入会金	363,883,216	0	363,883,216
基本財産収入	18,417,066	0	18,417,066
事業収入	0	20,135,010	20,135,010
特定預金収入	58,595,600	0	58,595,600
諸収入及受取利息	38,534,215	68,121	38,602,336
当期収入合計	481,430,097	22,853,131	504,283,228
前期繰越収支差額	85,510,672	2,149,975	87,660,647
当期収入金額合計	566,940,769	25,003,106	591,943,875

支出の部

(単位：円)

科 目	一般会計	たたら特別会計	合 計
人 件 費	243,426,888	6,060,779	249,487,667
管 理 費	34,050,768	1,052,010	35,102,778
事業費	154,025,083	11,728,119	165,753,202
養成研究費	0	2,792,289	2,792,289
特定預金支出	60,000,000	0	60,000,000
予 備 費	0	0	0
当期支出合計	491,502,739	21,633,197	513,135,936
当期収支差額	△10,072,642	1,219,934	△8,852,708
次期繰越収支差額	75,438,030	3,369,909	78,807,939

し、伝統技術の保存につとめた。なお、製造された玉鋼については、刀匠に配布し便宜を計った。

10 修理事業
 回実施した。
 養成員一〇名を対象に講習会を一回実施した。

11 協会所属団体等に関する事業
 協会の要望により研磨、白鞘等の新調・補修など、保存上、適切な指導をした。

12 協会所属団体である全日本刀匠会、美術刀剣研磨技術保存会、美術刀剣外装技術保存会の三団体が相互の親睦と交流を深め、さらなる技術向上を図る目的で発足した「三匠会」に、伝統技術の向上及び後継者育成など、事業促進について指導した。

12 会員及び支部の状況

平成十七年度末日現在の会員数
 普通会員 六、二八五名

(うち海外会員二三九名)

学生会員 二三名
 終身会員 一〇三名

(うち海外会員九名)

維持会員 一八名
 優遇会員 四二名

計 六、四七一名

支部は現在、八〇支部(うち海外二支部)である。

財 産 目 録

平成18年 3 月31日現在

科 目	摘 要	金 額	
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金・預金			78,807,939
現 金	手元現金有高	2,832,135	
普 通 預 金	みずほ銀行初台支店	68,673,020	
〃	三菱東京UFJ銀行新宿中央支店	283,472	
〃	住友信託銀行新宿支店	88,966	
〃	中央三井信託銀行本店営業部	82,712	
郵便貯金	代々木郵便局	6,847,634	
未 収 入 金			20,570,800
審 査 未 収 金	保存・特別保存刀剣等審査料 683件	13,913,550	
〃	重要・特別重要刀剣等指定料 66件	6,426,000	
広 告 料 未 収 金	刀剣美術広告料 4 件	169,050	
保 険 料 立 替 未 収 入 金	支部鑑賞会保険料 2 件	38,200	
出 版 費 未 収 金	出版費未収金 1 件	24,000	
販 売 用 書 籍	日本刀講座その他		21,586,802
製 品	玉鋼製品在庫		55,523,459
半 製 品	玉鋼(ケラ)		6,080,998
原 材 料	木炭・砂鉄		5,904,918
流 動 資 産 合 計			188,474,916
2. 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
定 期 預 金	みずほ銀行初台支店		1,384,284
建 物	本館鉄筋コンクリート4階建1475.78㎡	54,578,256	
	荷とき場 鉄筋コンクリート3階建	4,215,919	58,794,175
土 地	渋谷区代々木4-25 893.54㎡		53,660,000
投 資 有 価 証 券 及 預 金			900,000,000
国 債	第207回利付国債(10年)	30,198,000	
〃	第244回利付国債(10年)	302,661,314	
〃	第251回利付国債(10年)	150,149,178	
〃	第273回利付国債(10年)	99,950,287	
公 債	第281回大阪府公募公債(10年)	99,803,835	
〃	兵庫県平成17年度第4回公募公債(10年)	99,903,561	
〃	埼玉県平成17年度第4回公募公債(10年)	99,476,000	
定 期 預 金	みずほ銀行初台支店	17,857,825	
刀 剣 及 小 道 具	刀剣類財産台帳記載のとおり		715,250,000
基 本 財 産 合 計			1,729,088,459

科 目	摘 要	金 額		
(2)その他固定資産				
建 物	鉄骨造高殿他	1,979,230		
	作刀鍛錬道場 (鳥上工場敷地内)	81,214		
	日本刀鍛錬道場 ()	1,524,656	3,585,100	
建 物 附 属 設 備	高殿給排水設備他	329,193		
	本館空調設備他	11,725,508	12,054,701	
構 築 物	砂鉄運搬路他	1,680,901		
	赤羽刀記念碑他	6,665,762	8,346,663	
機 械 装 置	たたら炉他		4,056,933	
器 具 備 品	備品台帳記載のとおり		6,201,003	
土 地	長野県小県郡真田町菅平山林 1,030m ²		300,000	
刀 剣 及 小 道 具	刀剣類財産台帳記載のとおり		110,572,809	
研 修 用 教 材	研修用太刀・刀・脇差 61点		6,322,000	
絵 画	日本画・洋画・書・レリーフ他 11点		4,800,000	
図 書 及 押 型	網屋押型・竹屋秘伝書日本の鏝他		8,960,000	
試 作 刀 資 料	玉鋼試作刀資料 22口		22	
減価償却引当預金			380,000,000	
定 期 預 金	みずほ銀行初台支店	50,000,000		
〃	住友信託銀行新宿支店	10,000,000		
〃	三菱東京UFJ銀行新宿中央支店	120,000,000		
債 券	日興コーディアル証券	100,000,000		
〃	野村證券	100,000,000		
退職給与引当預金			70,792,070	
定 期 預 金	みずほ銀行初台支店	50,792,070		
〃	中央三井信託銀行本店営業部	20,000,000		
刀剣学奨学積立預金			4,863,763	
定 期 預 金	みずほ銀行初台支店	4,863,763		
その他の固定資産合計				620,855,064
固 定 資 産 合 計				2,349,943,523
資 産 合 計				2,538,418,439
II 負 債 の 部				
1. 流 動 負 債				
前 受 金			37,622,827	
広 告 料 前 受 金	刀剣美術広告料46件	14,301,000		
会 費 前 受 金	18年度会員会費	23,321,827		
仮 受 金	職員に対する源泉所得税他		1,942,731	39,565,558
負 債 合 計				39,565,558
差 引 正 味 財 産				2,498,852,881
(うち基本財産)				(1,729,088,459)
(うち普通財産)				(769,764,422)

以上の通りであります。

平成18年4月24日

財団法人 日本美術刀剣保存協会
会 長 橋 本 龍 太 郎

上記決算書類監査の結果適法正確なるものと認めます。

平成18年4月25日

監 事 高 山 一 之
監 事 萩 原 守

平成十八年度事業計画及び予算

▽平成十八年度事業計画△

本協会の寄付行為に基づき、平成十八年度の事業計画は次のとおりである。

1 鑑賞研究事業

(1)本部主催鑑賞研究会

八月・十二月を除き、毎月第二土

曜日に鑑賞研究会を開催し、刀剣・

刀装具類の鑑賞研究を行う。

(2)支部主催鑑賞会

支部の要請により、本部職員等による講師の派遣及び本部所蔵等の刀剣類を貸し出し、支部会員に鑑賞・研究等の指導を行い、併せて本部と支部間の連携を図る。

2 講習会及び研修会事業

(1)作刀・研磨・鞘・鍔・柄巻・彫金・鍛冶研ぎの各技術の向上と技術保存を図るために、各種の美術刀剣製作技術保存研修会を実施する。

(イ)刀職技能訓練講習会を六月二十七日より二十九日の三日間、備前長船刀剣博物館において、講師は各刀職の無鑑査より選定し、講習生は原則

として刀職についている者、または目指す者より募り実施する。

(ロ)第三十九回刀剣研磨・外装技術研修会を八月二十一日より二十六日の六日間、刀剣博物館において、講師は各刀職の無鑑査より選定し、特別研修生・研修生・聴講生を原則として刀職についている者、または目指す者より募り実施する。

(イ)第二十四回作刀技術実地研修会を九月二十五日より二十八日の三日間、島根県仁多郡奥出雲町の「日刀保たたら鍛錬道場」において、講師は刀職の無鑑査より選定し、特別研修生・研修生・聴講生を原則として刀職についている者、または修業中の者より募り実施する。

(2)文化庁主催で島根県仁多郡奥出雲町の「日刀保たたら鍛錬道場」において開催される平成十八年度美術刀剣刀匠技術保存研修会(九月末から十月の予定)に、協力事業として講師の派遣及び施設を提供し、支援する。

3 審査公開事業

(1)保存刀剣及び特別保存刀剣等の審

査を八月と九月を除き、刀剣と刀装・刀装具を隔月に審査し、その台帳を作成する。

(2)第19回特別重要刀剣等審査の受付を四月十日から十二日に行い、申請された物件の審査・指定を行い、その台帳及び図譜を作成する。また新たに指定されたものを「第19回特別重要刀剣等新指定展」として、刀剣博物館において五月二十三日より六月四日まで展示する。

(3)第五十二回重要刀剣等の受付を九月四日から六日に行い、申請された物件の審査・指定を行い、その台帳及び図譜を作成する。また、新たに指定されたものを「第五十二回重要刀剣等新指定展」として、刀剣博物館において十月二十四日より十二月三日まで展示する。

(4)新作刀及び彫金・刀身彫の各技術の振興のために新作刀展覧会の名称で開催していた公募展を平成十八年新作名刀展(文化庁後援)と名称を変え、出品作を公募し、四月十七日から十九日の三日間受付し、申請さ

れた作品を審査し、入賞・入選を決定する。表彰は六月六日に行い、刀剣博物館において六月六日より十八日まで、入場無料で公開する。

(5)刀剣研磨技術・外装技術の向上と奨励を図るため、第五十九回刀剣研磨・外装技術発表会の出品作を十一月十日締め切りにて公募し、申請された作品を審査し、入賞・入選を決定する。

表彰は十二月五日に行い、刀剣博物館において十二月五日より十七日まで、入場無料で公開する。

4 伝位に関する事業

各支部より申請された伝位の申請者の審議を二月十四日に伝位審議委員により行い、二月二十二日開催の理事会に答申し、適格者に対する伝位の授与を行う。

5 刀剣博物館事業

(1)刀剣類の平常展示及び特別展示を行う。

(2)刀剣博物館の管理・運営を行う。

(3)刀剣博物館の運営基金ならびに刀剣類の寄付受け入れを行う。

6 会誌『刀剣美術』の発行事業

会誌『刀剣美術』を毎月発行し、各種研究の成果の発表と刀剣・刀装具等の美術的・学問的な研究鑑賞の普及ならびに情報公開のために、これを会員に配布する。

7 資料の整備及び活用事業

(1) 刀剣・刀装具等に関する文献及び参考資料の収集につとめ、研究者の利便を図る。
(2) 資料室を会員の利用に提供する。

8 寄託事業

刀剣・刀装・刀装具及び甲冑・武器、文献等の寄託に応ずる。

9 たたら事業

(1) 選定保存技術（たたら吹き）の後継者（村下）の養成のため、たたら国庫補助による村下養成講習会を一月下旬に開催し、また玉鋼の製造（たたら操業）を一月中旬より二月初旬に行う。

(2) 製造した「日刀保たたら」による玉鋼を五月下旬より刀匠に分与し、その使用を指導する。

(3) 玉鋼の品質研究を図る。

(4) 玉鋼の備蓄を図る。

10 地区大会事業

北陸地区大会（九月・福井県あわら市内）開催に際し、本部職員等による講師の派遣及び本部所蔵刀剣

等を貸し出し、鑑賞・研究等の指導を行い、支部の事業を支援する。

11 修理事業

刀剣等の保存上必要な研磨・白鞘・緋・柄巻・外装等の修理等について適切な指導を行う。

12 協会所属団体等に関する事業

(1) 三匠会主催の「東急本店現代名刀展」（九月上旬）、「ながの東急現代名刀展」（九月二十七日より十月四日まで）の後援をするなど、三匠会ならびに全日本刀匠会、美術刀剣研磨技術保存会、美術刀剣外装技術保存会等の事業に対し、指導を行う。

(2) 文化団体及び各種同好会との提携を図り、広く文化の向上に寄与する。

13 その他の事業

(1) 都道府県における刀剣類登録について全国各地の会員を通じて、趣旨の徹底と業務の遂行に協力する。

(2) 刀剣関係法規の周知徹底を図る。

(3) 会員の増加につとめる。

(4) その他、本協会が必要と認めた事業を行う。

平成18年度 予算総括表

[収入の部]		(単位：円)		
科目	会計別	一般会計	たたら特別会計	合計
寄付金収入		300,000	0	300,000
補助金等収入		2,000,000	2,650,000	4,650,000
会費及び入会金		329,350,000		329,350,000
基本財産収入		13,800,000		13,800,000
事業収入			20,000,000	20,000,000
特定預金収入		20,000,000	10,000,000	30,000,000
諸収入		34,500,000	50,000	34,550,000
前期繰越金		60,000,000	1,880,000	61,880,000
合計		459,950,000	34,580,000	494,530,000
[支出の部]		(単位：円)		
科目	会計別	一般会計	たたら特別会計	合計
人件費		202,400,000	6,750,000	209,150,000
管理費		49,252,000	2,835,000	52,087,000
事業費		180,597,000	19,110,000	199,707,000
養成研究費			3,385,000	3,385,000
予備費		10,000,000	1,000,000	11,000,000
次期繰越金		17,701,000	1,500,000	19,201,000
合計		459,950,000	34,580,000	494,530,000